

平成 26 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(平山地区)

開催日時	平成 26 年 10 月 29 日 (水) 午後 7 時から午後 8 時 30 分	天気 晴れ
場 所	平山集会所	
町民参加者	男 20 人 女 5 人 (40 代以下 2 人、50 代 1 人、60 代以上 22 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、総務防災課長、参事兼都市整備課長、上下水道課長、商工観光課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：町政全般》

- 富士山が噴火した時を想定とした防災訓練を行ったというのを新聞で読んだが、富士山が噴火した際にはどこに逃げたらよいのか。
- 富士山の噴火に関連したことになるが、農家が気になることはみかんやお茶の上に積もった火山灰の処理をどうするのかである。町としては溜まった火山灰の捨て場について考えているのか
- 災害時には平山集会所を避難所として設置するということになると思うが、鍵は自治会で持っているので開けることはできるが、避難してきた人の対処は自治会で行うのか、町で行うのか。
- 宮地交差点の信号時間が変わったことで、朝と夕方の国道 246 号の上下線の渋滞がすごい。この渋滞を避けるため平山地区を通る車が増えている。町の方として交通安全対策等の考えがあるのか。
- 国は地方創生を掲げているが、そういうことであれば神奈川県観光の代表ポイントでもある洒水の滝の活用、またそれを支える平山地区の自治会が頑張っているということをアピールしてもらいたい。
- 国民健康保険税の算定で資産割を取っているが、山北町の税率は固定資産税の 33.9% である。固定資産税を払って、更に国保税を払うと、税金の二重払いのようである気がする。
- 少子化が進んで、平山地区も一昔前までは小学生が 50 名以上いたが、最近は 10 名ぐらいしかいない。少ない子どもに対して町は手厚く保護しているというのは聞いている。子どもに太鼓を教えているが、そういった団体とかに対して優遇するような施策はあるのか。